

薬の自己調節・中止は危険です

吉良内科循環器クリニック 院長 吉良 哲也



高血圧等で定期的に外来を受診している患者さんと診察室にて、「先生、今日は血圧の薬は余ってるから出さんでいいわ」「どうしてですか?」「毎朝血圧測ると、低い日があるからその日は薬を飲んじょらんのよ」「低いってどれくらい?」「上が110下が60ぐらい」「・・・(丁度いい血圧なのに、、、、)」

降圧薬をはじめ、ほとんどの薬は毎日きちんと服用することを前提に、成分や量が調整されています。朝の血圧が下がっているからといって服用しないと、その日から翌日にかけて血圧が上がることとなります。そもそも、110/60mmHgの血圧は理想的な血圧であり、それ位の値を目指して処方しています。血圧の正常値は収縮期血圧(上の血圧)が90~140mmHg程度であり、測定する季節や時間、体調により常に変化しますが、その範囲の中で推移していれば問題ありません。さすがに収縮期血圧が70とか80しかない場合は、降圧薬服用は避けた方が良く考えられますし、日々の血圧が十分すぎるほど下がってくれば、毎日飲む薬を減量・中止することも考えられますが、いずれも自分で判断せず、かかりつけ医に連絡・相談してください。

高血圧に限らず、糖尿病や脂質異常症も、もともと症状が出にくいので、1日薬が抜けても、体調の変化を自覚することはあまりありません。しかし血液中の薬の濃度は大幅に減り、治療に望ましい濃度に回復するのに数日かかることもあります。また血液を固まりにくくする薬など、数日服用を忘れると命に係わる薬もあります。

薬をきちんと服用するという事は、患者さんと医師との重要な約束事です。自己判断で調節・中止せず、不安・疑問があればかかりつけ医に相談されて下さい。

吉良内科循環器クリニック 大分市大字角子原 870 TEL097-522-3000